

《沢田地区自治協議会からのお知らせとお願い》

11月11日(金)に理事会を開き、懸案の旧沢田中学校の利活用について協議の結果、意見がまとまり、役場に要望しました。

【要望の要旨】

- 南側の旧校舎を解体する。
- 北側の校舎と体育館を、沢田児童館と自治センターで使用する。

今後、設計に続いて工事(解体、改築)を行うこととなります。工事に伴い、樹木の伐採及び移植が必要になりますが、樹木の中には記念として植樹されたものもあります。

樹木の伐採、移植についてご意見がありましたら、12月上旬までに自治センターへお願いします。

白鳥の会

11月15日(火)に白鳥の会が開かれました。

沢田児童館の園児との交流が行われ園児たちの歌、踊りに目を細めておられました。

お手玉では、おばあちゃんたちのあざやかな手さばきに園児たちも驚いている様子でした。

多くの方にとってひ孫にあたる年齢の子供たちとの交流を、楽しんだひとときでした。



【12月の行事予定】

(11月25日現在)

日	曜	行事名	日	曜	行事名
1	木	石陽吟詠会 19:00	14	水	沢田太極拳
3	土	民生児童委員方部会 9:00	15	木	石陽吟詠会
4	日	食生活改善推進委員会 9:00	19	月	ヨガ愛好会
5	月	人権相談 12:30 ヨガ愛好会 19:15	20	火	白鳥の会 9:00 書道教室A
6	火	書道教室A 13:30	21	水	沢田太極拳
7	水	沢田太極拳 13:30	22	木	石陽吟詠会
8	木	石陽吟詠会 教育文化部会 19:00	26	月	華の会 18:30 ヨガ愛好会
12	月	ヨガ愛好会	27	火	フラダンス愛好会 書道教室B 15:00
13	火	フラダンス愛好会 10:00 書道教室B 13:30 自治協議会理事会 19:00 白鳥の会事前会議(4班) 19:00	12/29(木)~1/3(火)年末年始休暇のため休館		

※冬休みの間、中・高生の皆さん自主学習の場として自治センターを活用ください。

自治センターの戸棚から、昭和のはじめに編集されたと思われる「澤田郷土読本」という冊子が見つかりました。沢田の昔話が16編収録されています。いずれも貴重なものばかりです。今回、その中の1編を紹介します。なお、「漢字」、「かな」を一部現代風に改めてあります。

《 昔 話 》

寒い土曜日の晩でした。私たちは友達2、3人と、いつもの爺さんの家を訪ねた。爺さんは今夜も炬燵の上に電燈をさげて講談本をよんで居られる。

「爺さん今晚は」と、言ったら眼鏡をはずしながらニコニコして「お、来たな、さあはいれ」と、ふとんをまくられる。私たちも炬燵に入る。

「お爺さん今夜も亦昔のえらい大将のお話をして下さい。」と言いますと

「よしよし今夜は自分の村のお話をしてやろう。」と、おっしゃる。「わしも若い頃聞いたことで忘れたところもあるが、まあ聞かせてあげよう。」と、言ってポツリポツリと語られる。

「何でもこの村の大昔のことはよく分からんが、860年ほど前に源頼義というえらい大将がおりました。あなた達も知っているでしょう。八幡太郎義家という人のお父さんです。頼義公はこの辺から北にいた悪者を征伐したが、この地は大切なところだと思われたのででしょう。その一族の源有光という一方の大将を石川の古町のうしろの八幡山に館をきづかせてこの地方を治めさせられたのだが、この有光が三男の沢井三郎源基光という人を根宿の上館（わだて）に分家させたのが、今の館山に残っている館跡です。」

「ではお爺さん館とって城とちがうのですか。」

「いや城と同じようなものだが城という程にはゆかない。それより小さなものです。」

「その頃はこの辺りは何という名の土地だったのです。」

「なんでもその頃は泉の荘沢田の郷といったそうです。そののち基光の子孫が500年ばかりは治めていたのであるが、宗次という人のとき太閤秀吉の小田原征伐に兵を出さなかったために本家の石川昭光と共に追われて宮城県の角田へ行ってしまっただけからは館には誰も居なくなったようです。その後はこの辺を治めた人も大分変わりがあつたようです。」

「では県とか郡とかはいつ頃から出来たのですか。」

「さあ福島県となつたのは明治九年で、わしらが若い頃だつた。ざあつと60年近くになりましょうか。それから2、3年過ぎて、石川郡役所というのが出来て、沢田村となつたのが明治二十二年ですから今から42、3前でした。」と言って話をきつた。

「ではお爺さん沢田村という名の前は何と言つたのです。」

「その前は沢井村、赤羽村、新屋敷村とって、この三箇村が合併して沢田村という名をつけたのだが、その時はずいぶん議論があつたもので、三箇村の名を一字ずつ取って赤沢屋村としたほうがよい、などと中にはがんばつた者もあつたが、それでは屋号のようだ、というので、つまり昔この辺りを沢田郷といったのだからそのまま沢田村とつけようという人がでて、それがよいと言うことで今の通りに決まつたのでした。

土地の名なんていうものは皆そんなもので、沢井という名も東内打の五大尊様のところにあるあの清水の井からつけられたのであるとか、新屋敷というのとはもと新たに出来た荒れ屋敷といったのが変わったのであるとか、みんなそういったようなものだよ。ハッハッハッ……。

鉄砲山というのは白河の結城氏がこの山から鉄砲で館山の館を攻めたのでそういうのだとか、いろいろな伝説があるものだ。」

そこへお婆さんが餅を焼いてお盆に上げて持って来てくださったので、みんなでいただいた。お爺さんもムグムグロをうごかして餅を一つたべ、お茶を一ぱいのんだ。

「ああ、そうそう土地の名といえばお話することがもつとある。赤羽の北の原の中にあるあの平らな館だ。なんでもあれは源義家の家来の鎌倉の権五郎が一夜に築いたということだ。だからあれを権五郎館とも一夜館ともいうのだそう。義家がしばらく居たのだろう。

しかし或人の話では一夜館はこの辺りに住んでいたアイヌ人の遺跡だなどともいっているが、よくはわからないけれどもああいう所をよく調べたらこの辺の大昔の事もよく知れるだろう。どうぞお前達も今少し大きくなつたら、一つ調べてみることにしては。」

話はいつまでたつてもなかなかつきない。柱の時計が9時を打つた。

あまりおそくなつても、と思つてみんなでおいとまをしたら、お爺さんは

「お前達が来るとたいくつしないのでよい。お前達の元気のよい顔を見るのが何よりも楽しみだ。又お出で。」とおっしゃつた。

次の土曜日に来る約束して外に出た。お月さまは西山に傾いて風はヒヤリとする。